

デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会（第8回）（非公開）

議事要旨

1 日時

令和6年5月24日（金） 10時00分～12時00分

2 場所

中央合同庁舎2号館（総務省）8階 第1特別会議室/WEB会議

3 出席者（敬称略）

構成員：

岡嶋裕史（中央大学政策文化総合研究所所長）、クロサカタツヤ（株式会社企代表取締役）、高田潤一（東京工業大学環境・社会理工学院学院長/教授）、高橋利枝（早稲田大学文学学術院教授/ケンブリッジ大学「知の未来」研究所アソシエイト・フェロー）、中尾彰宏（東京大学大学院工学系研究科教授）、中島美香（中央大学国際情報学部准教授）、平田貞代（芝浦工業大学大学院理工学研究科准教授）、森川博之（東京大学大学院工学系研究科教授）、柳川範之（東京大学大学院経済学研究科教授）、若森直樹（一橋大学大学院経済学研究科准教授）

総務省：

竹内総務審議官、今川総合通信基盤局長、荻原電波部長、渋谷総合通信基盤局総務課長、中村電波政策課長、廣瀬基幹・衛星移動通信課長、小川移動通信課長、内藤電波環境課長、清重革新的情報通信技術開発推進室長、西室電波政策課企画官、加藤国際周波数政策室長、武馬電波利用料企画室長、小倉基幹通信室長、中川重要無線室長、入江移動通信企画官、道方電波環境課企画官、竹下監視管理室長、臼田認証推進室長

4 配布資料

資料8-1 5G普及のためのインフラ整備推進ワーキンググループ報告書（案）

資料8-2 5G普及のためのインフラ整備推進ワーキンググループ報告書（案）概要

資料 8-3 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会報告書骨子（案）（非公開）

資料 8-4 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会報告書骨子（案）概要（非公開）

参考資料 8-1 検討スケジュール（想定）

5 議事要旨

（1）開会

（2）議事

5G普及のためのインフラ整備推進ワーキンググループ報告書案及びデジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会報告書骨子案について事務局から説明があり、意見交換が行われた。

- 周波数の移行再編について、場当たりのな移行にならないよう大きな方向性を描いていくべきではないか。
- 手続の簡素化・柔軟化された新しい免許制度について、混信しないことを担保する具体的な仕組みの検討を深めてほしい。また、免許の取得の簡素化だけでなく、最初の一步の敷居を下げられるような仕組みも併せて考えていくべき。
- ワーキンググループの報告書について、ミリ波を推進するべきと思っているが、キャリアには、まずサブ6でしっかりとインフラを構築してもらって、その上でミリ波への投資を長期的に考えていただくのが現実的ではないか。サブ6もミリ波も中途半端なことになることは避けたい。
- ワーキンググループの目標の設定に当たって、人口、高トラフィックエリア、低トラフィックエリアという要素を考慮したことは大きな変化である。人口動態が大きく変わっていくことが見込まれる中で非常に重要な考え方であり、今後も継続してほしい。一方で、低トラフィックエリアのインフラ整備を控えてよいということではないと明示しておきたい。

- ビジョンを策定したり、電波関連情報を集約したりするだけでなく、わかりやすく周知広報していくことも重要。
- 国家安全保障の観点からも今後議論を深めるべきであり、例えば、人口密集地以外のコネクティビティも社会的価値を持ち始めるだろう。
- ワーキンググループの目標の設定に当たって、人口集中地区に着目していることについて、トラヒックを優先して費用対効果の高い整備を行うことは戦略的に妥当。一方で、地方において通信インフラが十分ではないためにDX事業の実証ができなかったという例も聞いている。優先度はあろうと思うが、電波やデジタルは地理的なことを超えることが出来るので、人口密集地ではない場所でも戦略的に成功モデルを作っていけるとよいのではないか。
- 産業用途で無線を用いるに当たっては、安心して使える無線を実現することが重要。
- 5Gのインフラ整備において公平な競争環境を整えることが必要。
- IoTにおける宇宙利用は民間の方の興味が高いので宇宙へ漏れている電波を捕捉するところの扱いなど整理をしていただきたい。
- 電波利用料について、限られた用途に必要な費用のみを徴収する仕組みとなっているが、電波に見込まれる価値を考慮して徴収してもよいと思うし、その収入を地方で電波を利用するための鉄塔や施設などに活用してもよいのではないか。
- 無線利用が拡大してくるにつれて、またデジタルビジネスの拡大を考える際は、純粋な電波や通信の事業者がそれ以外の産業の人と組むことにも話が及ぶため、官民の役割や総務省が取り組む範囲を整理していくことが大事である。
- 電波利用の将来像としては、ワーキングにおける議論も踏まえ、地方のみならず都

市部の暮らしのワクワクも実現できることを出せるとよいのではないか。

(3) 閉会